

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500746		
法人名	社会福祉法人 千草会		
事業所名	グループホーム さざんか		
所在地	熊本県山鹿市鹿央町合里1081-1		
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果市町村報告日	平成24年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F
訪問調査日	平成23年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風光明媚な場所にあり、四季の移り変わりを感じながら、豊かな自然の中で、景色を楽しんだり、犬を飼ったり、畑仕事をしたり、自然を楽しみながら、潤いのある日常生活が保てるように支援します。併設施設と協働しながら、地域の方々との交流を通して、温かい関係作りができ、広がりのある生活を楽しめるよう支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の広い敷地内の一角に位置し、ホームからは自然豊かな風景が見ることができる。法人とは体調急変やその他の緊急時での協力体制が構築されており安心である。また、定期的に運営者や栄養士の訪問があり、ホームの様子や献立など、運営に関する職員の意見などが反映されやすい体制である。入居者は落ち着いた穏やかな生活が送られており、職員間のチームワークの良さやケアに真摯に取り組まれている姿勢が伺えた。今後は、地位への高齢者介護や認知症の理解の啓発のための取り組みが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務移動があり、勉強会を行い、運営理念に基づき努力している。	理念を職員全員で見直し、異動してきた新任の職員にも説明している。目につく場所に掲示し、理念を念頭に置いたケアに努めており、会議の際にも話をしている。	家族や地域の方にホームについてさらに理解してもらうように、理念の啓発などの取り組みが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設や地域の方との交流がある。	ホームの近隣周辺には民家が少なく、日頃からの付き合いは難しいものの、同敷地内に隣接する法人施設のイベントに参加したり、週2回ボランティアの訪問がある。地域のいきいきサロンにも出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域ふれあい交流会を開催し、施設長より地域の方々に、認知症について理解を深めていただけるよう、話しをされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人会の方や区長さん、民生委員さんの出席があり、意見をいただいている。	2ヶ月に1回開催されており、ホームの近況報告や行事報告、虐待の問題など議題にあり、討議している。年1回消防関係者に参加してもらい、防災などについて話をしてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括センターや鹿央支所の職員の出席があり、ケアの実情報告や事例紹介などを行っている。	地域包括センター職員や行政職員に運営推進会議に参加してもらっている。会議で高齢者介護の実情など話をしてもらい、相談や情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会で話し合いをもっている。夜間帯のみ玄関施錠を行っている。	法人全体で身体拘束のないケアの実践に努め、委員会で話し合いや勉強会を開催している。身体拘束に関するマニュアルを掲示し、常に念頭においている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会で話し合い、標語を作り、意識向上に努めている。		

グループホーム さざんか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度について1月に職員研修会を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や、相談員が契約時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、家族会で話し合いを行っている。	訪問時には意見や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。年3回広報誌を発行し、担当者により入居者の様子を文章で伝えている。家族会の開催時も意見を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、会議を行っている。	毎月の会議や日常の業務の中で職員の意見やアイデアを聞いている。出された意見は早急に全員で討議したり、法人に報告・相談し解決に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHブロック研修会で、交流している。また、次年度に向けて、山鹿連絡会を検討中であり、交流会を予定している。		

グループホーム さざんか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間での、話し合いの場を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに、話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を元に、入居時に本人・家族と話しをし、意見を聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることは手伝ってもらい、意欲的にやりたいことがあれば、できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全家族とはいえないが、ほぼ出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週2回、近くの方がボランティアに、来られている。毎月いきいきサロンに出かけられている。	地域住民による定期的なボランティアの訪問があり、話し相手や掃除などされている。隣接のデイサービスにしばしば出かけている。今までの馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話したり、良い関係作りが出来ておられる方達もおられる。会話が出来ない方は職員が話し相手になり、かかわりを持つようになっている。		

グループホーム さざんか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居したあと、家族と相談員の間に入り、調整をとった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で話し合いながら、本人本位を考慮するようにしている。	日頃の入居者との関わりの中で、会話や態度で思いや意向の把握に努め、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や、本人との会話などで、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックや申し送りで、心身の状況把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医・ご家族・職員間で話し合っている。	全職員で3ヶ月毎にモニタリングを実施し、計画の見直しにつなげている。家族や主治医の意見も取り入れた的確な計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成し、申し送りで情報の共有を図り、定期的に見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスや、特養施設に出かけたり、行事や交流会に参加している。		

グループホーム さざんか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、いきいきサロンへ出かけている。また、毎年、併設施設や特別支援学級の生徒さんと餅つきをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、往診があり、症状に応じて受診したり、変化があれば、その都度、家族に連絡している。常にかかりつけ医と、情報交換を行っている。	希望の医療が受けられ、月2回往診をしてもらっている。受診後は家族と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養医務の協力体制があり、かかりつけ医院の看護師と連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	11月18日～12月6日入院された方がおられ、2～3日おきに見舞いに行き、病院側との情報交換をおこなった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会や入居時に、ターミナルケアについて話をしたり、内部研修会を行っている。また、家族に考えていただくよう、入居時に文書を渡している。	入居時に家族に「重度化した場合における（看取り）指針」を説明し、ホームでできることとできないことなどを話し、同意書もらっている。日頃から入居者や家族には希望を聞いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時は特養医務に診てもらい、指示を受けている。対応については内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、夜間想定で避難訓練を実施。併設施設との協力体制についての、確認を行っている。	夜間想定で年3回、入居者参加の避難訓練を実施している。通報訓練もやっている。隣接法人施設の協力体制は構築されている。	夜間想定だけでなく、昼間の避難時の職員の動きの確認訓練も期待されます。

グループホーム さざんか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉かけをしている。	入居者ひとり一人に合わせた言葉かけや対応をしており、尊厳を重視したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話の中で、希望などを聞き、自己決定できるように、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ちぐはぐな服装をしていたら、鏡の前で話をしたり、外出時は口紅を選んでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や茶碗洗いなど、できることを手伝ってもらっている。家庭菜園で採れた物を、食卓に出したりしている。	法人の栄養士が作成した献立を、職員と入居者の力量に応じて一緒に作っている。菜園で収穫した野菜が食卓に上ることもある。足りない食材を入居者と一緒に行き物に出かけている。嚥下能力に応じて食事形態を変えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おかゆやキザミの大きさなど、個々に応じた栄養や、量を摂って貰うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや、見守りを行い、出来ない方は、出来ないところを介助している。		

グループホーム さざんか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方でも、トイレでの排泄を試みている。その方にあった、介助方法を行っている。	それぞれの入居者に応じた排泄の支援を行っている。時間やしぐさを察して、声掛けや誘導をし、できるだけ昼間はトイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操をしたり、ヨーグルトや、イモ類、根菜類を毎日献立に入れたり、こまめな水分補給を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて、ゆったりした気分で入浴してもらっている。拒否がある時は、無理強いしない、失禁時はその都度、シャワー浴をしている。	入居者の希望に合わせた入浴支援を行っている。基本1日おきであるが、希望があればいつでも入浴できる。拒否の方には無理強いせず、シャワー浴や清拭を行うこともあり、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせた、就寝時間の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服変更時、その都度、申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いきいきサロンやデイサービスに行ったり、音楽や習字、生け花を楽しまれている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により散歩したり、ドライブや買物に外出している。特養の仏壇参りに、行かれる方もおられる。また、家族の協力で墓参りをされる方もおられる。	ホーム周辺には民家は少ないものの広い敷地内の散歩や、隣接しているデイサービスに出かけたり、同敷地内の特養に出かけたりしている。買い物や季節ごとのドライブにも出かけている。	

グループホーム さざんか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の方が、お金を所持しておられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる方は1名おられる。電話は話すことは出来るが、自分でかけられる方はおられないので、かけたいときは職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や温度調節を行っている。また、生活感、季節感を感じられる空間作りをしている。	気持ちよく生活できるように室温や光量、音量など配慮している。季節感を感じる花や装飾品を飾ったり、家庭的な雰囲気の空間作りをしている。空気清浄器も設置している。	冬場は換気の機会が少なくなる季節です。入居者の状況に応じた換気も望まれます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方が、ご自宅で使われていたものを、持って来られている。	ひとり一人に応じた居室作りの支援をしている。なじみの生活用品や家具、家族の写真やご自分の作品など飾られている。身体状況に応じて家具のレイアウトを変えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「便所」「お風呂場」の表示をしている。また、自分で洗濯物干しがしやすいように、ベランダで干してもらっている。		

グループホーム さざんか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	立地条件に問題があり、近くのお年寄りの方が、気軽に立ち寄れる場所がないため、日常的に交流することが難しい。地域密着型施設として考えた場合、年に1回の地域交流会では少ないと思われる。どうか日常的に交流を図ることが出来ないのか、課題である。	地域の方と日常的に、交流することが出来る	1, 運営推進委員会議で包括センターに相談。現在、いきいきサロンに出かけているが、利用者のご自宅部落の、いきいきサロンへ出かけ交流を図り、その後、施設の方へ来てもらうようにするのよいのではないかと意見をいただいた。4月より実施の方向とする。	12ヶ月
2				2, 子育て支援の場所として、使ってもらよう開放してもよいのではないかと、との意見もあり、行政の方からも声かけをしてみるとのことだった。	12ヶ月
3				3, 男子の料理教室があるので、その方達に利用者と一緒に出来るおやつ作りなど、来てもらうはどうかとの意見もあり、声かけをしてみるとのことだった。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。